

Minami Kyushu University Syllabus									
シラバス年度	2022年度	開講キャンパス		都城キャンパス	開設学科		環境園芸学科		
科目名称	国際関係論					授業形態	講義		
科目コード	750015	単位数	2単位	配当学年	1年	実務経験教員		アクティブ ラーニング	○
担当教員名	鎌田 真琴								
授業概要	国際関係理論や歴史的・文化的・地政学的背景を学ぶことで、ウクライナ侵攻、イギリスのEU離脱、難民問題、地球環境問題、テロリズムなど世界のさまざまな問題を、客観的に考察する力を養うことを目的とする。同時に、身近な事例からグローバル化やSDGs、企業の社会的責任（CSR）についての理解を深め、グループワークを通して議論する力、まとめてわかりやすく伝える力を養う。								
関連する科目									
授業の進め方 と方法	毎回予習としてテキストの指定の箇所を読み、各章の「問題」について答えを準備してくる。授業では、講義にグループワーク・ペアワークを織り交ぜながら、学習内容の理解を深める。また、学習内容に関してグループでディスカッションやプレゼンテーションを行う。授業後は学習内容を復習して、次の回の初めに小テストを行い理解度を確認する。								
授業計画 【第1回】	第1回 国際関係論について 国際関係論とはどのような学問なのかについて基礎から学ぶ。（テキスト第1章）								
授業計画 【第2回】	第2回 20世紀の国際関係 戦争の世紀といわれた20世紀を振り返り、ポスト冷戦時代の国際関係の特徴を学ぶ。（テキスト第2章）								
授業計画 【第3回】	第3回 今日の国際関係 21世紀に入ってからの国際関係を、アメリカの外交政策や自国第一主義を中心に学ぶ。（テキスト第3章）								
授業計画 【第4回】	第4回 グローバリゼーションの時代 グローバリゼーションの背景を学び、その光と影を考察する。（テキスト第4章）								
授業計画 【第5回】	第5回 現在の安全保障 国際社会における安全保障について学び、安全保障上の脅威について考察する。（テキスト第5章）								
授業計画 【第6回】	第6回 北東アジアの政治と国際関係 北東アジア諸国の近現代史を整理し、各国間の国際関係問題を学ぶ。（テキスト第6章）								
授業計画 【第7回】	第7章 国際社会における日本の位置づけ 日本の安全保障問題と、国際社会における日本の立場と役割について学ぶ。（テキスト第7章）								
授業計画 【第8回】	第8回 国際関係理論 リアリズム、リベラリズム、コンストラクティヴィズムなど主要な国際関係理論の概要を学ぶ。（テキスト第8章）								
授業計画 【第9回】	第9回 国際レジーム論とグローバル・ガバナンス論 国際レジーム論、グローバル・ガバナンス論を学び、その視点から国際関係を考える。（テキスト第9章）								
授業計画 【第10回】	第10回 リージョナリズムと欧州統合 EUの歴史を振り返り、その諸政策、直面する課題について学ぶ。（テキスト第10章）								
授業計画 【第11回】	第11回 南北問題 途上国の課題を学び、SDGs目標の達成について考える。（テキスト第11章）								

授業計画 【第12回】	第12回 地球環境問題 地球環境問題に対する国際社会の取り組みと課題を学び、展望を考える。(テキスト第12章)
授業計画 【第13回】	第13回 非国家アクター 非国家アクターとは何かを学び、その国際社会での役割について考える。(テキスト第13章)
授業計画 【第14回】	第14回 市民社会 市民社会の国際社会での影響力を事例をもとに学ぶ。また、企業の社会的責任(CSR)について考える。(テキスト第14章)
授業計画 【第15回】	第15回 国際紛争・国内紛争をどう解決するか 現代における国際・国内紛争の特徴を学び、国連の役割を考える。(テキスト第15章)
授業の到達目標	国際関係理論の基礎を学び、現在おこっている国際関係問題を、客観的に説明できるようになる。 グローバル化・SDGs・CSRについて、身近な例を挙げながら、わかりやすく説明できるようになる。
学位授与の方針 (DP)との関連	1. 知識・理解を応用し活用する能力-(1) / 1. 知識・理解を応用し活用する能力-(2) / 2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(1) / 3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(4)
授業時間外の学修 【予習】	教科書の各章末の「知識を確認しよう」の問題を読み、1章分をよく読み込みながら自分なりの答えを考えておく。(1時間30分程度)
授業時間外の学修 【復習】	授業の開始時に前回の授業内容に関連する小テストを実施するので、復習をしておく。復習すべき重点箇所は授業時に指定する。(1時間程度)
課題に対する フィードバック	小テストは評価後、返却、コメントする。 定期試験は評価後、返却、コメントする。
評価方法・基準	小テスト30点 定期試験70点
テキスト	Next 教科書シリーズ 国際関係論 [第3版] 佐渡友哲・信夫隆司・柑本英雄 編 (弘文堂)
参考書	使用しない
備考	